

多古地区幼稚仔保育場のアワビについて

竹内四郎・勢村 均

保育場内のアワビ生息状況を観察した。

1. 調査期日：昭和57年8月

2. 保育場概況

水深2～7mにかけて、灘側に花型ブロックが9個1組になって、計243個設置され、沖側には十字ブロックが計661個ならべられている。十字、花型とも乱積みにはされていない。底は岩盤またはごろ石で所々に岩礁が存在する。

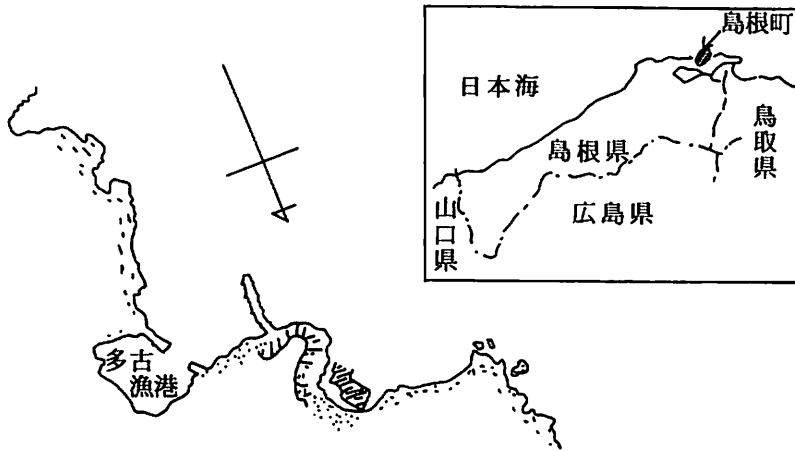
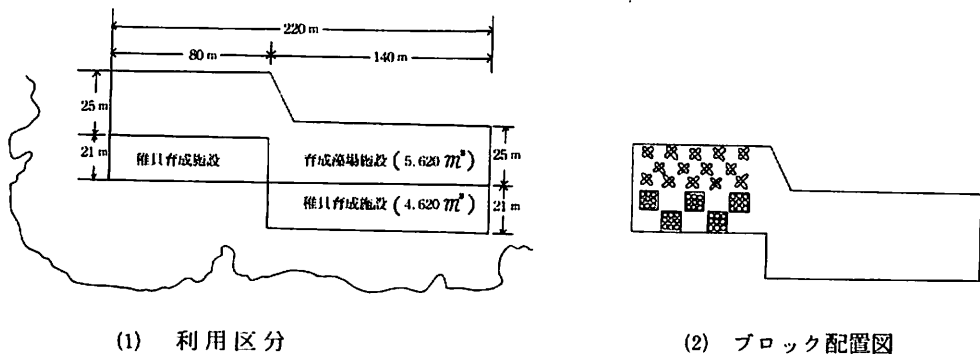


図-1 保育場の位置図



(1) 利用区分

(2) ブロック配置図

図-2 施設配置図

3. 調査方法

花型ブロックは適当な距離をおいて6群（54個、全体の22%）抽出し、1ブロックごとにアワビ個体数、殻長、付着部位を観察した。十字ブロックは全体から4群（120個、全体の18%）を抽出し、ブロック上に番号札をおいて番号順にアワビ個体数、殻長、付着部位を観察した。さらに、天然礁での生息状況を知るため、ブロック以外の水深1～3m、3～7mの4地帯を10分観察した。

4. 結果及び考察

a. 花型ブロック（図3）

ブロック6群の1ブロックあたり平均付着個体数は、それぞれ1.9～7.9、平均 5.4 ± 2.14 個体/ブロックであった。最大付着個体数は15個体であった。付着していたアワビはすべてクロアワビであった。殻長は10cm以下の個体がほとんどであった。よく利用している付着部位はブロック上面にさざみこんである溝のすきまであった。下面の溝にはヒトデが多数付着していたブロックがみられた。溝が海藻や泥でうまっているときにはアワビは全く付着していなかった。また、溝中に殻だけ残り斃死している個体が多数観察された。

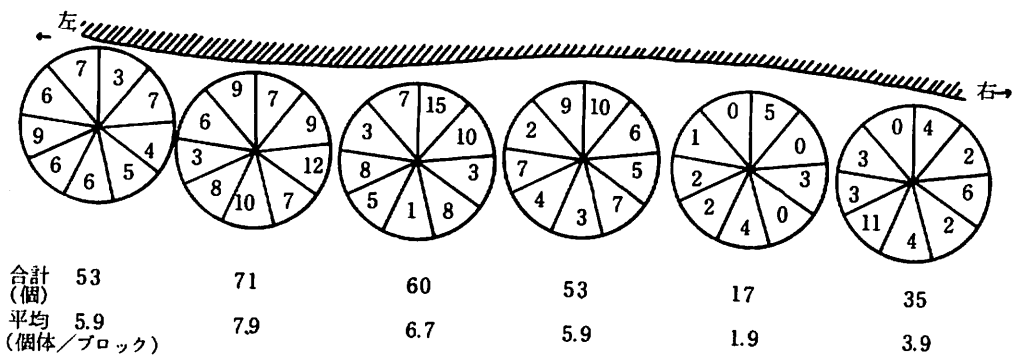


図3 花型ブロックへのアワビ付着個体数

b. 十字ブロック

十字ブロック4群での平均付着個体数はそれぞれ0.3～0.8、平均 0.5 ± 0.22 個体/ブロックであった。最大付着個体数は3個体/ブロックであった。付着していたアワビはほとんどクロアワビで、メガイも若干混じっていた。殻長は10cm以上の個体が90%以上あり、花型ブロックと組成が全く異なっていた。

よく利用していた部位はブロックの下面であった。ブロックには海藻はあまり着生していなかった。

表1 アワビ殻長組成

殻長(cm)	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
花型ブロック(%)	4	10	23	15	10	11	4	9	2	3	2	2	4	1	0	0
十字ブロック(%)	0	2	0	0	0	5	0	18	2	12	10	21	21	5	2	2

c. 天然石へのアワビ生息状況

保育場内の人工礁以外の箇所を、水深1~3m域と、3~7m域の両方に分けて、2ヶ所ずつ、計4ヶ所について、潜水者2名で10分間アワビを探索した。その結果、1~3m域では4個体/10分、5個体/10分、3~5m域では2個体/10分、1個体/10分であり、浅所により多く生息する傾向がみられた。

d. 植生(表2 図4)

現存量は972~21,680g/m²の間にあり、モク類およびミルが優占していた。水深5m地点では海藻が全く着生していない箇所があった。

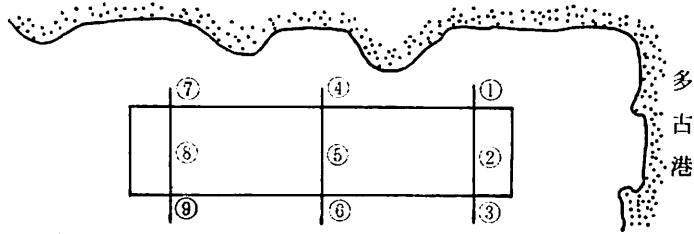


図4 植生調査点配置図

表2 植生調査結果 (g/m²)

種類	区分	① (1m)	② (3m)	③ (5m)	④ (1m)	⑤ (3m)	⑥ (5m)	⑦ (1m)	⑧ (3m)	⑨ (5m)
トゲモク		12								
アカモク		400								
ノコギリモク			1,040	4,840	20			80		
ヤツマタモク			880		1,120			280		
オオバモク						5,280				
クロメ					160	720				
アミジグサ						8				
コナミウチワ								80		
イギス		480						320		
オバクサ		80								
ハイテングサ			4							
ミル									21,680	
合計		972	1,924	4,840	1,300	6,008	0	760	21,680	0